

国家戦略特区制度の今後の進め方への意見

越塚登

国家戦略特区諮問会議・議員

新規提案数が令和 6 年度の 50 件から令和 7 年度には 123 件へと急増したことを、制度への期待の高まりとして心強く感じました。また、「提案から方針決定まで原則半年以内」という目標が達成されたことも高く評価いたします。関係各位のご尽力に深く敬意を表するとともに、さらなる充実を期待します。

この取組を充実させるに当たっては、国家戦略特区制度の本来の高い理念に立ち戻り、規制改革提案という「入口」とどまらず、今回多くの事項で得られた「結論」や「所要の措置」のその先、一事業開始・投資実行、さらには「国家戦略特区内外に及ぼす経済的社会的効果」の数値化や目標期間の設定という「出口」側の目標に至るまで一を見据え、社会実装の実行とその評価へと取組を充実いただくことを希望します。

一方、より根本的な視点に立ち戻ると、我が国に蓄積された規制（許認可等の根拠条項等）のストックは「万」のオーダーに及ぶと推定されます。国家戦略特区の今後の進め方においては、この「万」のストックに対し規制改革のフローが年間「百」のオーダーにとどまるという二桁の乖離を直視し、規制ストックの実態把握や規制改革の構造の在り方も含めて検討していく必要があると考えます。

以上